

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：32702

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2015

課題番号：26870662

研究課題名(和文)インターネットの使用と偏見の関係の実証的研究

研究課題名(英文)An Empirical Study on the Relationship between Internet Usage and Prejudice

研究代表者

高 史明(Taka, Fumiaki)

神奈川大学・人間科学部・非常勤講師

研究者番号：90594276

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、オンライン調査により、インターネットの利用と在日コリアン・女性・同性愛者に対する偏見の間に関連があるかを検討した。その結果、匿名掲示板の2ちゃんねるやその他の掲示板の利用といった偏見と正の相関があるもの、SNSの利用といった偏見と負の相関のあるものなどが明らかにされた。また、社会支配指向、集団的ナルシズム、マスメディアに対する猜疑心、生活満足度、主観的な生活の質などがこうした効果を媒介することが明らかにされた。

研究成果の概要(英文)：In this study, I conducted an on-line survey to investigate the relationships between Internet usage and prejudice against Zainichi Koreans (Korean residents in Japan), women, and people with same-sex orientation. Results revealed that some forms of Internet usage, such as viewing and posting on 2 channel (an anonymous BBS site popular in Japan) or other BBS sites have positive correlations with prejudice, while some others, such as using SNS have negative correlations. Furthermore, I suggested that social dominance orientation, collective narcissism, suspicion about mass media, life satisfaction, and subjective quality of life mediate these effects.

研究分野：社会心理学

キーワード：レイシズム 人種・民族偏見 セクシズム 女性に対する偏見 ヘテロセクシズム 同性愛者に対する偏見 インターネット ソーシャル・メディア

1. 研究開始当初の背景

2000年代初頭から現在にかけて、インターネット上では在日コリアン(日本に居住する朝鮮・韓国籍者)を中心とした様々なマイノリティに対する差別的な言説が流行している。このような中で、研究代表者はインターネットの使用と在日コリアンに対する偏見(レイシズム)に関連があることを、実証的な研究をもとに明らかにしてきた。

しかしながらこれらの研究では、大学生サンプルのみを用いているため、より一般的なサンプルでも同じ効果を見いだせるかが不明であること、インターネットの使用とレイシズムの関係を媒介する変数については明らかにされていないこと、などの限界があった。また、インターネット上で差別的な攻撃を受けるのは在日コリアンだけではないが、在日コリアン以外の対象に対する偏見とインターネットの使用の関連性については未検討であった。

2. 研究の目的

本研究プロジェクトでは研究代表者の過去の研究で得られた知見をさらに押し広げ、大学生サンプルではないサンプルを用いても同じ結果が得られるか、インターネットの使用と偏見の関連が見いだせる場合、その間を媒介する変数は何か、在日コリアン以外の様々な対象(女性や性的マイノリティなど)に対する偏見もインターネットの使用との関係があるか、を明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

交付された予算の枠内で出来る限り多くの成果を得るため、初年度(2014年度)は過去に得た研究データの再分析と再評価を行い、最終年度(2015年度)に向けて調査計画を調整することに費やした。“5. 主な発表論文等”に示した研究成果は、このプロセスにより得られたものである。

その結果を踏まえた上で、最終年度(2015年度)に、調査会社に委託しオンライン調査を行った。“4. 研究成果”に示す研究成果は、この調査によるものである。なお、この調査の成果は現段階では論文として公開されていないため、“5. 主な発表論文等”には含まれていない。今後、順次公開予定である。

オンライン調査は2016年2月に実施し、調査会社の登録モニターより男女別および年代別(10代より10歳刻みで50代まで)に同数(155人)ずつの計1550人より回答を得た。性別や年齢などのデータは、予め調査会社に登録された情報が用いられた。調査において測定したのは、大別すると、在日コリアン、女性、同性愛者に対する偏見尺度、様々な対象に対する感情温度などといった主たる目的変数、インターネットのサイト・サービス別使用時間、目的別使用時間などの主

たる説明変数、保守的イデオロギーである社会支配指向(Pratto, Sidanius, Stallworth, & Malle, 1994)、集団的ナルシシズム(de Zavala, Cichocka, Eidelson, & Jayawickreme, 2009)、生活満足度(Diener & Emmons, 1985)、主観的な生活の質(QOL; 独自項目)、マスメディア猜疑(独自尺度)などの潜在的な媒介変数であった。

4. 研究成果

(1) 在日コリアンに対する偏見の3指標を目的変数とし、デモグラフィック変数および目的別のインターネットの利用時間を説明変数とする重回帰分析の結果を示す。なお、日本国籍であると回答した回答者1544名のみが、この分析に用いられる全ての設問に回答した。デモグラフィック変数は強制投入し、インターネットの利用時間はステップワイズ法で投入した。偏見の指標には、研究代表者の過去の研究(高, 2015)にならい、比較的純粋な好き嫌いの指標である感情温度、“在日コリアンは劣っている”という信念に基づく古典的レイシズム、“在日コリアンに対する差別は既に存在せず、在日コリアンは特権を得ている”という信念に基づく現代的レイシズムを用いた。

インターネットの利用目的は、“情報収集” “娯楽” “コミュニケーション” “教育・学習” の4カテゴリを用いた。結果をTable1に示す。

Table1: インターネットの目的別利用時間と在日コリアンへの偏見の重回帰分析

	感情温度	古典的レイシズム	現代的レイシズム
女性	.16***	-.13***	-.11***
年齢	-.05	.09**	.09**
学歴	.06*	.04	.02
既婚	.01	-.02	.04
子ども有	.01	.04	.02
情報収集	-	-	.11***
教育・学習	.07*	-	-
R ²	.03***	.03***	.04***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

女性の方が全ての指標において偏見が弱く、また年齢が上がるほど偏見が強くなる効果が2つの指標で見られた。インターネットの利用目的としては、教育・学習目的の利用時間が感情温度に正の、情報収集目的の利用時間が現代的レイシズムに正の効果を持っていた(なお、感情温度では数字が大きいほど偏見が弱いことを表しているが、古典的/

現代的レイシズムでは数字が大きいほど偏見が強いことを表す。この結果を、2013年に得られた大学生サンプルにおける結果（高，2015，研究7）と比べると、教育・学習目標の利用がポジティブな、情報収集目的の利用がネガティブな影響を持つという点では一致しているものの、どの指標に対してその効果が見られるかという点では、一致していない。このことが、時期の違いによるものなのか、サンプルの違いによるもののかなどは、明らかではない。

また、インターネットの利用の偏見への影響を媒介する変数として、社会支配指向（2因子）、集団的ナルシズム、マスメディア猜疑、人生満足度、主観的な生活の質（QOL）の効果を検討した。

その結果、教育・学習目的のインターネットの利用時間は、人生満足度やQOLを高めることを介して、感情温度を高める効果があった。一方で、集団的ナルシズムやマスメディア猜疑を高めることを介したネガティブな効果も有意であった。また、これらの媒介要因で説明できない直接効果も有意であった。

また、情報収集目的のインターネットの利用は、集団的ナルシズムおよびマスメディア猜疑を高めることを介して、現代的レイシズムを強める効果があった。社会支配指向へのインターネットの利用の効果は因子により符号が異なっており、その結果2つの因子は正反対の間接効果を示した。

（2）次に、利用サイト・サービス別の利用時間を独立変数とした同様の分析の結果を示す。

利用サイト・サービスのカテゴリは高（2015）にならったが、“youtube”と“ニコニコ動画”を新たに加えている。結果をTable2に示す。

SNSの利用時間は、偏見の全ての指標に対して、好ましい影響があった。またメールを書く時間の長さも、古典的レイシズムを除く2つの指標に好ましい影響があった。逆に2ちゃんねるの利用は、全ての指標に対して、好ましくない影響があった。テレビ局や新聞社以外が運営する新興ニュースメディア、2ちゃんねるまとめブログ、2ちゃんねる以外の掲示板等の閲覧は、それぞれ一部の指標に対して、好ましくない効果を示した。

高（2015）と比較すると、メールを書くこととSNSの利用の時間の長さ、2ちゃんねるの利用時間が、より多くの従属変数に対して有意な効果を示した。

これらについても（1）と同様の媒介分析を行った。

まず感情温度では、メールを書く時間の長さが、人生満足度およびQOLを高めることを介して正の効果があった。他方、集団的ナルシズムやマスメディア猜疑を高めることによる負の効果もあった。SNSの使用は、人

生満足度およびQOLを高めること、また社会支配指向の2因子それぞれを弱めることを介して、それぞれ正の効果があった。2ちゃんねるの使用は、人生満足度を低めることを介して負の効果があった。最後に掲示板の利用時間の長さは、社会支配指向の1因子を強め、集団的ナルシズムを強めることを介して、それぞれ負の効果があった。

次に古典的レイシズムでは、SNSの利用は社会支配指向を弱めることを介してレイシズムを改善する効果があった。2ちゃんねる以外の掲示板の利用の効果は、社会支配指向の1因子および集団的ナルシズムを強めることによって媒介された。なお、2ちゃんねるの利用時間の効果を媒介する要因は見出すことができなかった。

最後に現代的レイシズムでは、SNSの利用は社会支配指向の2因子をとともに弱めることおよびQOLを高めることを介して、これを改善する効果があった。新興ニュースサイトの利用は、集団的ナルシズムおよびマスメディア猜疑を高めることを通じて、レイシズムを悪化させた。まとめブログの閲覧は、社会支配指向の1因子およびマスメディア猜疑を強めることを通じて、レイシズムを悪化させる効果があった。他方で、QOLを向上させることを介した改善効果もあった。2ちゃんねるについては、媒介要因は見出されていない。

Table2: サイト・サービス別利用時間と在日コリアンへの偏見の重回帰分析

	感情温度	古典的 レイシ ズム	現代的 レイシ ズム
女性	.14***	-.09***	-.06*
年齢	-.04	.08*	.07*
学歴	.05*	.05†	.04
既婚	.01	-.03	.03
子ども有	.01	.05	.04
メールを書く	.08**		-.05*
SNS	.08**	-.12***	-.12***
新興ニュース	-	-	.09***
2ちゃんねる	-.08*	.15***	.09**
まとめブログ	-	-	.12***
掲示板	-.07*	.10**	-
R ²	.05***	.07***	.07***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

（3）女性に対する偏見、同性愛者に対する偏見について、インターネットの目的別利用

時間が及ばず効果を検討した。用いられた尺度は、現代的セクシズム (Swim, Aikin, Hall, & Hunter, 1995) および、回避的ヘテロセクシズム、敵対的ヘテロセクシズム (Walls, 2008) の 3 つである。なお、同性愛者に対する偏見の尺度に回答したのは、性的指向を尋ねる設問において自身が性的マイノリティにあたる、もしくは分からない、と回答した回答者を除く 1455 名である。重回帰分析の手順は、(1) と同様である。結果を Table3 に示す。

Table3: インターネットの目的別利用時間と女性 / 同性愛者への偏見の重回帰分析

	現代的セクシズム	回避的ヘテロセクシズム	敵対的ヘテロセクシズム
女性	-.28***	-.23***	-.20***
年齢	-.05	.11***	-.01
学歴	-.05	-.00	-.05
婚姻	.02	-.06	-.07
子ども有	.01	.06	.12**
情報収集	-	-.07**	-.10***
R ²	.08***	.07***	.06***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

どの目的のインターネット利用時間も、現代的セクシズムを予測しなかった。他方、回避的ヘテロセクシズムおよび敵対的ヘテロセクシズムについては、情報収集目的の利用がこれを弱めるという効果が有意であった。

(1) と同様の媒介分析を行った結果、回避的ヘテロセクシズムについては、社会支配指向の 2 因子を介した間接効果はいずれも有意であったが、符号は互いに逆であった。また、集団的ナルシズムを高めることを介して回避的ヘテロセクシズムを間接効果も有意であった。情報収集目的の利用からの効果は、主として、本研究で考慮した媒介変数を介さない直接効果によるものであった。

敵対的ヘテロセクシズムについてはこれらに加えて、情報収集目的の利用がマスメディア猜疑を強め、このマスメディア猜疑がヘテロセクシズムを弱めるという媒介効果も有意であった (マスメディア猜疑は、レイシズムに対しては好ましくない効果があったが、現代的セクシズム、敵対的ヘテロセクシズムに対しては、好ましい効果を示した)。

(4) 次に、利用サイト・サービス別の利用時間を独立変数とした同様の分析の結果を示す。分析の手順は (2) になった。結果

を Table4 に示す。

Table4: サイト・サービス別利用時間と女性および同性愛者への偏見の重回帰分析

	現代的セクシズム	回避的ヘテロセクシズム	敵対的ヘテロセクシズム
女性	-.26***	-.20***	-.19***
年齢	-.03	.09**	-.00
学歴	-.04	-.00	-.05*
婚姻	.01	-.06	-.07
子ども有	.01	.07*	.12***
まとめブログ	.14***		
メールを読む	-.07**		
SNS	-.06*	-.10***	
掲示板		.13***	.08**
R ²	.10***	.08***	.05***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

(2) で見られたようなまとめブログの好ましくない効果は現代的セクシズムに対して、2ちゃんねる以外の掲示板の好ましくない効果は 2 つのヘテロセクシズムに対して、SNS の好ましい効果は現代的セクシズムと回避的ヘテロセクシズムに対して見られた。また、メールを読む時間の長さが現代的セクシズムに好ましい効果を示した。

媒介分析の結果を以下に示す。

まず現代的セクシズムに関しては、まとめブログの利用が、社会支配指向の 1 因子を強めることを通じて、これを強化する効果があった。他方、マスメディア猜疑を高めることを介した、セクシズムを弱める効果もあった。掲示板の利用は、集団的ナルシズムを強めることを介して、セクシズムを強めた。メールを読む時間の長さは、マスメディア猜疑を強めることを介した好ましい効果と、集団的ナルシズムを強めることを介した好ましくない効果を持った。SNS の利用は、生活満足度を高めることを介して好ましくない効果を、社会支配指向の 1 因子を弱めることを介して好ましい効果を、示した。

回避的ヘテロセクシズムに対しては、掲示板の利用は、社会支配指向の 2 因子をともに強めること、集団的ナルシズムを強めることを介してこれを悪化させる間接効果が有意であった。SNS の利用の効果を媒介する変数は明らかにならなかった。

敵対的ヘテロセクシズムにおいても、社会支配指向と集団的ナルシズムを介した掲

示板の利用の効果は有意であった。ただし、掲示板の利用は、マスメディア猜疑を高めることによりヘテロセクシズムを弱める効果もあった。SNS の効果を媒介する変数は、やはり明らかにならなかった。

(5) まとめ

本研究では、目的別、あるいは利用サイト・サービス別のインターネット利用時間が在日・女性・同性愛者に対する偏見に影響を及ぼすかを、オンライン調査を用いて検討した。その結果、一部の使用形態が偏見の強さを予測することが、明らかになった。

また、社会支配指向、集団的ナルシシズム、生活満足度、主観的な生活の質、マスメディア猜疑といった要因が、インターネットの使用から偏見への様々な効果を媒介していた。

<引用文献>

- de Zavala, A. G., Cichocka, A., Eidelson, R., & Jayawickreme, N. (2009). Collective narcissism and its social consequences. *Journal of Personality and Social Psychology*, 97(6), 1074-1096. <http://doi.org/10.1037/a0016904>
- Diener, E., & Emmons, R. (1985). The satisfaction with life scale. *Journal of Personality Assessment*, 49, 71-75. Retrieved from http://www.tandfonline.com/doi/full/10.1207/s15327752jpa4901_13
- Pratto, F., Sidanius, J., Stallworth, L. M., & Malle, B. F. (1994). Social dominance orientation: A personality variable predicting social and political attitudes. *Journal of Personality and Social Psychology*, 67(4), 741-763. <http://doi.org/10.1037/0022-3514.67.4.741>
- Swim, J. K., Aikin, K. J., Hall, W. S., & Hunter, B. A. (1995). Sexism and racism: Old-fashioned and modern prejudices. *Journal of Personality and Social Psychology*, 68(2), 199-214. <http://doi.org/10.1037//0022-3514.68.2.199>
- 高史明 (2015). レイシズムを解剖する：在日コリアンへの偏見とインターネット. 東京：勁草書房.
- Walls, N. E. (2008). Toward a multidimensional understanding of heterosexism: the changing nature of prejudice. *Journal of Homosexuality*, 55(1), 20-70. <http://doi.org/10.1080/00918360802129287>

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

高史明、雨宮有里、Twitter における日本人に言及する日本語ツイートの計量的分析、総合人間科学、査読有、4、2016、49-59

岸政彦、高史明、Twitter におけるコリアンに対する日本語でのレイシズム言説：高(2014)のさらなる分析、国際社会文化研究所紀要、査読無、17、2015、79-91

高史明、雨宮有里、在日コリアンへのレイシズムに対する集団間接触の効果：男女差を考慮した分析、総合人間科学、査読有、3、2015、35-51

高史明、雨宮有里、杉森伸吉、大学生におけるインターネット利用と右傾化：イデオロギーと在日コリアンへの偏見、東京学芸大学紀要.総合教育科学系、査読無、66、2015、199-210

高史明、日本語 Twitter ユーザーの中国人についての言説の計量的分析：コリアンについての言説との比較、人文学研究所報、査読有、53、2015、73-86

高史明、日本語 Twitter ユーザーのコリアンについての言説の計量的分析、人文研究 査読有、183、2014、131-153

[学会発表](計2件)

高史明、在日コリアンに対するレイシズムの社会心理学的研究、日本心理学会第79回大会、2015年9月23日、名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)

高史明、インターネットの使用形態と在日コリアンへのレイシズム、日本社会心理学会第55回大会、2014年7月26日、北海道大学(北海道・札幌)

[図書](計1件)

高史明、勁草書房、レイシズムを解剖する：在日コリアンへの偏見とインターネット、2015、227ページ

6. 研究組織

(1)研究代表者

高史明(TAKA, Fumiaki)
神奈川大学・人間科学部・非常勤講師
研究者番号：90594276